# テーマ：色

池袋第五保育園（豊島区）

## テーマを設定する

子ども達は日頃から、ぬりえや絵の具遊び、折り紙などを通して、色に興味、関心を示し始めている。色を使った探究に取り組み、様々な素材に触れて、ダイナミックな遊びや、感覚、感触遊びを楽しむ中で、色の変化に気がついたり、色彩感覚を育む機会をする。

## 活動①　アーティストワークショップ1

色の中（部屋）に入り込んで、色から連想される世界をつくっていく

## 環境をデザインする

●準備した物　クレヨン、油性マジック、色紙、毛糸、リボン、カッティングシート、はさみ、セロテープ、ほか

## 探究活動を実践する

●活動内容
①ジョニー（アーティスト）の自己紹介の後、ジョニー自作の紙芝居「ふしぎなマンション」の読み聞かせ。様々な色の部屋にそれぞれの色の住人達が住んでいる物語から、活動のイメージを膨らませる。
②教室とホールには、天井を色のビニールで覆い、光が通過する9つの色の部屋が並んでいます。「まずはお部屋の中に入ってみよう！」
③「紙芝居の続きをみんなに作ってもらおうと思います」
④カラフルな紙やカッティングシート、毛糸、モールなどの素材を使って、作ったものを部屋の中に貼ったり、部屋の内壁にマジックで直接描いて、色の部屋を賑やかにしていきます。
⑤ジョニーから子どもたちの製作したものを褒めたり、「部屋の中で寝転んでいるだけでもいいよ」など声かけ。
⑥「来週も今日の続きをやります」と子どもたちに伝えて終了。

●子供たちの様子
・「むらさきのへや、むらさきのかみ、むらさきのクレヨンだよ」色につつまれながら、描いたり作ったり、あそぶを行き来しながら、イメージが広がっていく。
・両手にペンを持って夢中になり。壁にも、床にも、どんどん自由に描いていく。
・天井から毛糸をたくさんつるしている。蛍光灯のあかりが、色ビニールを透過する様子を見て、色の光が落ちてくるイメージがわいた。「みて、でんきみたい！」

## 活動スケジュール（3歳児クラス）

| 活動内容 | | 実施日 | 時間/回 | 人数/回 |
|---|---|---|---|---|
| ① | アーティストワークショップ1<br>講師：水内貴英（美術家） | R6.12.5（木） | 90分程度 | 19人 |
| ② | アーティストワークショップ2<br>講師：水内貴英（美術家） | R6.12.12（木） | 90分程度 | 19人 |
| ③ | 発表会で披露・他、自由な造形環境 | R7.1. 25（土）・他 | 30分程度 | 21人 |

## 振り返りをふまえた気づき

●保育士から
・活動内容が魅力的で、子どもたちの興味や関心にとても良く合っていた。より色に対して探求心が高まったように感じた。
・普段の保育ではなかなか実現しにくいダイナミックな活動で、子どもたちがのびのびと自由な発想で遊びを楽しんでいた。
・素材の種類が豊富であったことや、自由度が高いテーマだったので、最後まで飽きることなく取り組んでいた。
・子ども同士声を掛け合い、友達のつくった作品の上に制作物を貼ることなく、お互いがいお互いを思い合う姿が見られた。

# テーマ：色

池袋第五保育園（豊島区）

## 活動②　アーティストワークショップ2

色の部屋から、外の世界へ。水性絵具が加わり、ダイナミックに描き、混色の面白さを探求する

### 環境をデザインする

●準備した物　クレヨン、油性マジック、色紙、毛糸、リボン、カッティングシート、はさみ、セロテープ、水性絵具、筆、紙コップ

### 探究活動を実践する

●活動内容
①ジョニー「9個のお部屋を合体しました！」迷路のように組み合わさった色の部屋をみんなで散策します。
②「今日は床に描いてもいいよ！」
③前回と同様、カラーペンで部屋の中と周り、そして床が色鮮やかになる。
④色紙、カッティングシート、モール、毛糸などの素材をペタペタ貼っていく。
⑤徐々に色の部屋を飛び出して、外の世界でモールづくりやリボンくぐりが始まる。
⑥「絵の具を使って、壁に色をつけてみよう！」
⑦白い壁がカラフルになり、やがてみんなの色が重なっていきます。
⑧「いろんな色のお部屋のつづきをみんな描けたかな？部屋は残していくので、また色のお話をつくってみてね」

●子供たちの様子
・「おなまえ、かく！」と張り切った声。入口に表札を作るために、青い紙を貼ってカラーペンで描くが、青に黄色では見えにくいことに気づいて「あれ？」
それでも気持ちは表札ができたことに満足。
・「ピンクとあお、まぜたらどんな色になるかなぁ」「やってみよう！」と絵の具で壁をカラフルに装飾。「すごい色だぁ～」「色のじっけんだぁ」色の変化や混色を楽しむ姿が見られた。

### 振り返りをふまえた気づき

●保育士から
・前回のワークショップの後から2回目のワークショップの間（1週間）に、子どもたちからのリクエストで「不思議なマンション」の紙芝居を3～4回読んだ。2回目までにつづきを作る準備ができていたので、時間が空いていても物語として繋がっていた。
・制作スペースで座って作業をする「静」の要素と、作ったものを色の部屋の中へ持ち込む「動」の要素が入り交じっていたことで、90分間集中できていた。
・今までの保育と比べると、大人からの声掛けが一番少なく、それぞれ子どもたち自身の中で物語が展開していた。
・絵の具が加わることで色彩がきれいになり、より一層つくろうとする欲が子どもたちから感じられた。普段、絵具の量に制限があったり、床に描くことができないので、気持ち良さそうにおもいっきり描いている姿が印象的だった。